

愛媛の保育



発行者／愛媛県保育協議会
会長／伊東 道子
編集責任者／浅野 文子

発行所／愛媛県保育協議会
松山市持田町三丁目8番15号
愛媛県社会福祉協議会内



保育制度の変動期に思うこと

愛媛県保育協議会会長 伊東 道子



二〇一〇（H二二）年九月から、政府は子育て支援の新たな制度づくりを目指して「子ども子育て新システム」の議論を進めています。それは、二〇一三（H二五）年施行を目指し進んでいますが、二〇一二（H二三）年七月の中間とりまとめでは、財源確保のしないままに制度改革が進んでしまう可能性や、私学助成を継続したままの制度案が新聞に掲載されるなど、当初の理念である「子どもの育ち・子育て家庭を社会全体で支える」から乖離した内容になっているのではとの懸念が出てきています。そのためにも、新たなシステムが、子どもの今を、そして社会の未来を守るためのものとなるよう、左記の内容について継続して見守ってまいりたいと思っています。

一、児童福祉としての役割を維持するべき
二、制度設計は、財源確保と一体的に進めるべき
三、手厚い支援を必要とする子どもへの対応を強化・充実するべき

四、市町村の関与を法で明確に定めるべき
五、新システムの導入は、最低基準の改善等、保育の質の向上につながるものでなければならない

六、就学前の時期は3歳で分割することなく、発達の連続性を確保した制度として構築すべき

七、真に利用が必要な人が利用できる制度とすべき

また、新システムの議論により、子どもがおざなりになる事はあってはならないことです。これまでの保育の実績に自信を持ちつつ、私たちがするべきことは何なのかを考えていきたいと思います。集団保育の効果とともに、一人ひとりの子どもの個性や特徴を考慮することの意義と重要性を理解して、今、目の前にいる子どもたちが健やかに幸せな毎日を送るよう、真摯な態度とまなざしで子どものニーズ、思いや願いをありのままに受け止めて集団保育や個別保育を進めてまいりましょう。

最高の幸せ

この地球上の
子どもたちにとっての
最高の幸せとは、
それはただひとつ、
一人ひとりの人格が
尊重されることである。

ゲート

平成二十三年 度 ブロック別児童福祉施設 給食関係者研修会に参加して

みどり保育園 小宅 純子

今回の研修では子どもを取り巻く状況の変化と、食物アレルギーについて学んだ。

I 子どもを取り巻く状況の変化

①保護者の状況変化

核家族の増加のため、相談する事ができないことからストレスとなり、その結果虐待につながる。

②子どもの育つ環境の変化

外で遊ぶ事が減り、中でのゲーム遊びが増えたことで、子ども同士の関わりが減ってきている。

③働く親が増えた事による待機児童の増加

以上のような状況をふまえ、厚生労働大臣が定めた保育所保育指針に沿った保育所保育の重要性が高まっている。保育所は、保育に欠ける子どもの保育を行い、その健全な心身の発達を図ることを目的とする児童福祉施設であり、入所する子どもを中心に、子どもに必要な事が守られることを考え、家族の代わりという事だけではなく、子ども

もの24時間の生活の中で考えていく場ではなければならない。

一人ひとりの安全を守るという事は、集団の安全を守るという事につながる。朝元気に登園した子どもが、元気に家に帰っていく事が大事、そういう保育をする。

子どもの事故は、身体機能の未熟さ・性格・危険や安全に対する理解の不足などの子どもの持つリスクから起こる。保育所の事故については、周りが配慮し、事故を起こすものを除くなどの処置をとる事が大切である。子どもが大きくなるにつれ、事故を起こさないように指導していく。

子どもの食を取り巻く環境は大きく変化し、朝食欠食等の食習慣の乱れ、調理が見えない食事提供環境、一人で食事を摂る孤食等の増加にともない、食事の重要性をかけた「食」は生きる力の基礎となり、心身の健全育成や食を通じた人間形成を目指す。

II 保育所における食物アレルギーの対応の原則として

- 職員・保護者・主治医・緊急医療対応機関の十分な連携
- 医師の診断に基づく生活管理指導表による食物除去申請
- 食物除去は完全除去を基本とする
また、誤食に気をつけ、配膳時や隣同士で食べる子どもたちとの給食を誤って食べないように目配りする。

食物アレルギーの症状

- 皮膚粘膜症状 かゆみ、じんましん、むくみ、赤み、湿疹、まぶたのかゆみ、むくみ
- 消化器症状 腹痛、嘔吐、下痢、血便
- 呼吸器症状 くしゃみ、鼻水、鼻づまり、咳、ゼーゼー、ヒューヒューという呼吸音

- 全身性症状 アナフィラキシーショック（蜂刺され、薬品、食物アレルギー）脈が早い、ぐったり、意識がない、血圧低下等がみられる。

アドレナリン自己注射器（エピペン）アレルギー反応を起こして、重篤な場合、顔や首が腫れ上がって呼吸ができず、血圧が下がって命を落としてしまう事がある。

このような場合、発症から30分以内に救命処置としてアドレナリン薬を注射する（注射した時間を記しておき、救命救急の人に伝える）。

III まとめ

食育基本法では、子どもたちが豊かな人間性を育み、生きる力を身につけていくためには、何よりも「食」が重要である。

子どもたちに対する食育は、心身の成長及び人格の形成に大きな影響を及ぼし、生涯にわたって健全な心と身体を培い豊かな人間性を育んでいく基礎となるものであると記されている。

保育所では、食育ができるような保育士の環境を整え、自園調理ならではの環境の中で、お腹がすくリズムのもてる子ども、食べたいものの、好きなものが増える子ども、食事づくりや準備に関わる子ども、食べたものを話題にする子ども像の実現を目指すことの重要性を学んだ。それにもない、健康と安全の実施体制を整えるために、家族との連携を取り、互いの情報交換・信頼関係・説明責任を果たすことが大切となるので、園全体で取り組み、もう一度基本に戻り見直したい。

アレルギー除去食については、少量なら大丈夫という曖昧な目安は省き、完全除去をする事が誤食を防ぐ事につながることも学んだ。また、豆まき・小麦粉粘土・行事中のおやつ等の場合も注意が必要である。

地産地消に取り組む事も食育のうえでは大切だが、保育所給食では地産地消の前に、きちんと座って食べる、手洗い、うがい、あいさつ等のマナーを身につける事の方が大事という言葉も印象に残った。

第五十五回全国保育研究大会 に参加して

吉田愛児園 清水 すみえ

大会は、横浜を象徴する近代的な建物が集結している、みなとみらい地区の「パシフィコ横浜」で行われました。国際会議が行われる会場だけあって、大ホールの座席には折りたたみ収納式のテーブルが一人ひとりについており、記録ができるようになっていました。海が目の前に広がるとても気持ちの良い会場で、大勢のスタッフに迎えられ、初日の開会式の式典がはじまりました。横浜市消防音楽隊ポートエンジェルズ119による軽快な演奏のオープニングで始まり、行政説明、基調報告、表彰式、大会アピールなどが進められていきました。

夜には、クルージングによる参加者交流会が行われました。横浜のきれいな夜景を見ながら船上で美味しいご馳走をいただいて、盛大に楽しく交流会が行われたようです。とても好評だったという話を聞いて、参加しなかったのが少し悔やまれました。分科会、記念講演とあつという間に過ぎて行った三日間でした。

分科会は、特別分科会のうち『新たな保育制度の動きと保育所運営・組織



活動』の第十分科会に参加しました。私は、今一番気になっていることであるし、勉強不足を補い今の状況をきちんと把握したいという思いで参加をしました。会場に行ってみると二百七名という大勢の参加者に驚きました。分科会では今までで一番多い参加人数ということでした。それだけみんなの関心の高さが感じられました。

「子ども・子育て新システムに関する中間とりまとめ」と今後の対応につ

いて、淑徳大学教授の柏女霊峰先生、「保育園を考える親の会」会員で母親代表の竹下美穂氏、日本労働組合総連合会男女平等局長の中島圭子氏、全国保育協議会副会長の佐藤秀樹氏の四名がシンポジストとして参加し、それぞれの立場から意見を述べられました。

朝九時から午後四時三十分まで丸一日の「子ども・子育て新システム」についての研究協議は、睡魔に襲われないかと心配でしたが、睡魔どころか、記録をとるのに一日中必死でペンを走らせたので、夜は筋肉痛になってしま

うほどでした。新システムについては、検討課題という言葉が六十七回も出てくるほど決まっていなことが多く、今はまだ中間段階であり、まだまだ改善の余地は多いのではという思いを強く感じました。

私自身「子ども・子育て新システム」については反対であるし、今でも賛成ではないのですが、全国レベルの話を聞き、もう全面的反対という時期ではなく、とにかく進んでいっている中で、内容をよく理解して、少しでもより良い方向に向けていかなければならない、保育に携わっている私たちがリーダーとなり、意見を発信していかないといけないということであらためて考えさせられました。今まで少しは前向きに勉強していたつもりでしたが、今回の大会に参加して、自分は、井の



中の蛙”で視野の狭い中にいたのだなあということ強く感じました。

私が一番楽しみにしていた佐々木正美先生の記念講演でも、子どもたちを取り巻く環境に危機感を感じ衝撃を受ける講演内容でした。「現在の日本は親子関係が希薄となり愛着形成が弱くなってきた。泣いている赤ん坊の求めに応じて、何千回も応えることがその子が大人になったときに人間関係に喜びを見出すことができるようになる。何歳になっても、振り返ったときに待っている人がいるということが大切である。保育の中でも、振り返ったときに『自分を見守る先生がいる!!』という実感を抱かせる保育をしなければいけない」と話されました。

非常に学ぶことの多い大会でした。参加させていただきありがとうございました。

平成22～24年度全国共通研究テーマ

【主題】すべての人が子どもと子育てに関わりを持つ社会の実現をめざして

全 国 共 通 テ ー マ		研 究 テ ー マ
カテゴリー 1	子どもの育ちを保障する	①保育所保育指針に基づく質の高い保育を提供する
		②配慮を必要とするこどもの保育の充実
		③保育者の資質向上を図る
カテゴリー 2	子育てライフを支援する	④地域の保護者支援の充実 ～保育所利用家庭、地域の子育て家庭にむけて～
		⑤家庭との連携による食育の推進
カテゴリー 3	多様な連携と協働をつくる	⑥子育て・子育て支援のネットワークと保育所の役割
カテゴリー 4	子育て文化を育む	⑦コミュニティの再生・子育て文化の創造にむけて
カテゴリー 5	子育て・子育てを支援する仕組みをつくる	⑧公立保育所の使命と地域社会での役割

保育士の資質のさらなる向上のために～

「保育士の研修体系」（枠組み）

「全国保育士会倫理綱領」の前文では「私たちは、（略）自らの人間性と専門性の向上に努め」としています。「人間性」は保育士としての基盤です。保育士に求められる（広義の）専門性の構造として、①専門職としての基盤 ②専門的価値・専門的役割 ③保育実践に必要な専門的知識・技術 ④組織性 の4つに分け、これを横軸に階層別（初任者・中堅職員・リーダー的職員・主任保育士）の役割や教育目的を縦軸にし、「研修体系の枠組み」としています。

※詳しくは、全国保育士会ホームページに掲載されていますので、是非ご参照ください。

平成 24 年度 研修等の日程(案)のお知らせ

1月に開催した保育所長研修会をもちまして、平成23年度の愛媛県保育協議会研修事業は全て終了いたしました。会員の皆さまのご協力に厚くお礼申し上げます。

平成24年度の研修会日程（案）が決まりましたのでお知らせいたします。

なお、会場の都合で変更になる場合もありますのでご了承ください。

No.	行 事 名	日 程	会 場
1	愛媛県初級保育士研修会	6月7日(木)～6月8日(金)	多 目 的 ホ ー ル
2	愛媛県子育て支援専門研修会	6月28日(木)～6月29日(金)	多 目 的 ホ ー ル
3	四国ブロック保育研究大会	7月（開催日未定）	高 知 県
4	愛媛県障害児保育研修会	7月26日(木)～7月27日(金)	ひめぎんホール
5	愛媛県保育事業研修大会	8月18日(土)	ひめぎんホール
6	愛媛県0.1歳児保育研修会	9月20日(木)～9月21日(金)	多 目 的 ホ ー ル
7	全国保育士研究大会	10月18日(木)～10月19日(金)	鳥 取 県 鳥 取 市
8	愛媛県保育士研修会	10月25日(木)～10月26日(金)	ひめぎんホール
9	愛媛県主任保育士研修会	11月8日(木)～11月9日(金)	ひめぎんホール
10	全国保育研究大会	11月14日(水)～11月16日(金)	沖 縄 県
11	愛媛県保育所給食担当者研修会	11月29日(木)	ひめぎんホール
12	愛媛県保育所長研修会	1月24日(木)～1月25日(金)	多 目 的 ホ ー ル

※上記会場名のうち、「多目的ホール」は愛媛県総合社会福祉会館です。

※愛媛県保育事業研修大会は、1日のみの開催です。

平成二十三年 度

全国保育

協議会

会長表彰

保育事業に多大な貢献を
された方に贈られる全国保
育協議会会長表彰受賞者が
次のとおり決まりましたの
でご報告いたします。

No.	支 部 名	氏 名
1	今 治 市	長 野 千 枝
2	松 山 市	丸 山 美 保
3	伊 予 郡	喜 安 幸
4	西 宇 和 郡	中 村 明 江
5	西 予 市	河 野 香代子

和歌山で行われた全国保育研究大会で表彰を受けられまし
た。おめでとうございます

ご協力いただいた金額

972,510円

ありがとうございました

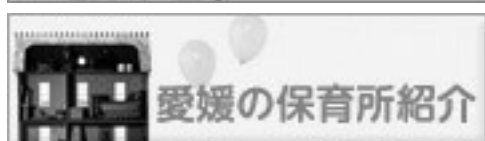
平成二十三年 度
保育制度充実のための活動
および保育所問題対応協力
金のご報告

昨年の九月にご協力をお
願いいたしました「保育所
問題対応協力金」は皆様の
ご協力により、今年度も目
標額を達成することができ
ました。

この協力金は全国保育協
議会が保育制度の充実強化
を目指すための活動に活用
させていただきます。

えひめの保育【愛媛県保育協議会】 ホームページ紹介

hoiku-ehime.ecgo.jp/



「えひめの保育」ホームページでは、愛媛県の保育所の活
動や愛媛の観光地・名産品等を紹介、保育士が見た！聞いた！こどもの「はっ！」とするつぶやきなど楽しいコンテ
ンツが盛りだくさんです！

「えひめの保育」ホームページでは、保育所・保育士の皆
さまからの投稿も同時募集しています。
皆さまからの投稿でこのホームページを盛り上げていきま
しょう♪

平成23年度愛媛県保育協議会は、16支部319施設、会員3,692名です。

園内研修 どうしていますか？



保育現場では、どんな時も、職員

の資質向上のための取り組みは欠かすことができません。職員の研修は、各園さまざまに行われていることと思

います。なかでも園内研修については、長時間保育、多様な勤務形態、保育所が持つ様々な機能の多様性などにより、効果的に行うためには難しい問題があるのではないかと考えられます。

そこで、他の園の取り組みを知ることができたら、自園の園内研修の取り組みの参考にできるのではと考え、愛媛県保育協議会の理事の皆さんの園を中心にアンケートをとらせていただきました。

◆内容について

- ・保育内容（指導計画を含む）……………17
 - ・特別支援教育・統合保育……………12
 - ・危機管理（防災・事故防止等）……………7
 - ・保護者支援……………4
- 他に、人権・同和教育、アレルギー、子育て支援、職員の勤務態度、絵画、運動遊び、健康管理、性教育、食育、

福祉QC活動などがありました。

◆方法について

- ・実践事例を通しての話し合い……………7
- ・専門職を招いて講義・意見交換……………4
- ・公開保育を行って研修をする……………3
- ・職員のアンケートによりテーマ決定
- ・公立保育園全体の自主研修で園ごとのテーマを決め各園で取り組む
- ・プリントの配布や意見提出

◆園内研修の課題

- ・時間の確保が難しい……………15
 - ・全員参加しての研修が困難……………10
 - ・問題意識、研修意欲、研修後の取り組み姿勢など、意識に差がある……………6
 - ・保育の見直しや発達のとらえが十分で実践記録の内容に差がある……………4
 - ・じっくり話し合う時間がとれないためテーマを掘り下げて研修を深めることが難しい……………2
 - ・同じ職員のため意見が偏りがち……………2
- ## ◆時間のやりくりや内容の充実のため工夫していること

どの園でもさまざまな工夫をしていることが分かりました。全員参加のために時には時間外に行うこともあるようです。運動会、お遊戯会の後に反省会プラス日頃の保育についてじっくり話し合う、月一回夜の全体ミーティングを全員で行う研修にあてている、土曜日午後に行く、などがありました。

保育時間内に研修するには、午睡時間の利用は当然のように行われています。他には、リーダーが集まって研修

しそれを他の人に報告する、資料配布などして事前にテーマや問題点を周知し意見をまとめてから参加する、少数グループに分かれて研修し報告し合う、などが時間を有効に使うことにつながるようです。

次に内容充実のために参考になると思われる意見をご紹介します。

- ・テーマ・担当年齢・経験年数・非常勤など分け方はいろいろあるが、少数グループだとテーマが絞りがやすく意見が出やすい
 - ・少グループの研修では、テーマ設定や事前準備など企画運営から自分たちで行う
 - ・課題をレポートで提出したり実践事例を書いたりすることは、書くことで自分の考えをまとめたり、自分の保育を見直したりできる
 - ・研修後も自分の保育や子どもや保護者などの変容について話し合い、さらに課題を見つけて次につなげ、園内研修に連続性をもたせる
 - ・一人の保育士が困っていることは他の保育士も一緒になって支援し、園全体で取り組むようにする
- アンケートの回答から、どの園でも園内研修を重視し、困難な状況の中で努力を積み重ねていることがうかがえました。会員の皆さまの園で、「こんな方法や工夫もあるよ」という事例がありましたら、事務局やホームページにお寄せいただければ幸いです。

●編集後記●

昨年は、たくさんの方が「本当に大切なこと」について考えた年でした。

年が改まって辰年となりましたが、被災地のことを思うと、龍のように力強くたくましく復興に向かうことを祈らずにいられません。「絆」を大切に心と心がつながる明るい一年になるといいですね。

総務広報部員一同



このたびのアンケートでは、園内研修の他に、保育や他機関との連携などの取り組みも書いていただいていたのですが、ご紹介できませんでした。できれば次の機会に紹介させていただきたいと考えています。最後になりましたがアンケートにご協力いただいた皆さま、本当にありがとうございました。